

けんおんくん

わき専用

オムロン 電子体温計
MC-6810T2

取扱説明書

電源ボタン

表示部

通信ボタン

フラット感温部

プローブ

このたびは、オムロン製品をお買い上げいただきましてありがとうございます。

- 安全に正しくお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
- 本書はいつもお手元においてご使用ください。
- 本書は品質保証書を兼ねています。紛失しないように保管してください。
- 本書に記載しているイラストはイメージ図です。

製品のお問い合わせ、別売品や消耗品のご注文、修理のご依頼は

オムロンヘルスケア お客様サポート

<https://www.healthcare.omron.co.jp/support/>

オムロン お客様サービスセンター

TEL 0120-30-6606 (通話料無料) FAX 0120-10-1625 (通信料無料)
受付時間9:00～17:00(祝日を除く月～金)
〒515-8503 三重県松阪市久保町1855-370
※都合により、お休みや受付時間の変更をさせていただく場合があります。

品質保証書

品質保証書

保証規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用状態で、お買い上げ後1年以内に故障した場合には無償にて修理、また故障内容や製品によっては、交換あるいは他機種との交換をいたします。
 - 無償保証期間内に故障して修理を受ける場合は、オムロンお客様サービスセンターまたはご購入の販売店にご連絡ください。
 - 無償保証期間内でも次の場合には有償修理になります。
 - (イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の落下、水没などによる故障および損傷。
 - (ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や電源の異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障および損傷。
 - 品質保証書の提示がない場合。
 - (ホ) 品質保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、または販売店で発行されたお買い上げを証明するものがない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - (ヘ) 消耗部品。
 - (ト) 故障の原因が本製品以外に起因する場合。
 - (チ) その他取扱説明書に記載されていない使用方法による故障および損傷。
- 品質保証書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。
 - 品質保証書は本規定に明示した期間、条件のもとにおいて無償保証をお約束するものです。したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
 - 修理対応期間は製造打ち切り後6年となります。

品質保証書

このたびは、オムロン製品をお買い求めいただきありがとうございます。製品は厳重な検査をおこない高品質を確保しております。しかし通常のご使用において万一、不具合が発生したときは、保証規定によりお買い上げ後、1年間は無償にて修理、また故障内容や製品によっては、交換あるいは他機種との交換をいたします。

※製品の保証は、日本国内での使用の場合に限ります。
This warranty is valid only in Japan.

販売商品コード MC-6810T2

お買い上げ店名

お買い上げ年月日 年 月 日

製造販売元
オムロンヘルスケア株式会社
〒617-0002 京都府向日市寺戸町九ノ坪53番地

入っていますか？

☒ 次のものがすべてそろっていることを確認してください。

☐ 本体

☐ 収納ケース

☐ お試用電池（リチウム電池CR2032×1個）

• 本体に内蔵されています。

☐ 取扱説明書（本書：医療機器添付文書・品質保証書付き）

• 品質保証書は本書についています。紛失しないようにしてください。

☐ セットアップガイド

• 不足しているものがありましたら、オムロンお客様サービスセンターにご連絡ください。
(☞「サポート情報」)

安全上のご注意

お使いになる前に必ずお読みください。ここに示した内容は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる人や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。

警告・注意について

	警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことが想定される内容を示します。
	注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害*の発生が想定される内容を示します。

*物的損害とは、家屋や家財および家畜やペットに関わる拡大損害を示します。

警告

- 乳幼児の手の届かないところに保管してください。
- 子どもだけで使用させないでください。
- 電池やねじ、電池カバーは乳幼児の手の届くところに置かないでください。万が一、乳幼児が電池やねじ、電池カバーを飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
(誤飲による窒息や傷害に至ることがあります。)
- 検温結果の自己診断や治療をしないでください。医師の指導に従ってください。
(症状が悪化する原因になります。)
- 人の検温以外に使わないでください。
(正しい検温ができません。動物などを無理に測ろうとすると、暴れてけがををする原因になります。)
- 本製品はわき専用の体温計なので、わき以外（耳や口中、直腸など）で検温しないでください。
(正しい検温ができません。耳や直腸などを傷つける原因になります。)
- 本体が水などでぬれた状態で測定しないでください。
(正しい検温ができません。)
- 他の医療機器（ペースメーカーなど植込み型医療機器を除く）と併用しないでください。
(誤作動の原因になります。)
- 本製品は電波を発信します。ペースメーカーなど植込み型医療機器を装着している場合は、Bluetooth®通信をオフにしてから測定してください。また、データ転送のために通信する際は、植込み型医療機器の装着部から15 cm以上離してください。
(植込み型医療機器または本製品の誤作動の原因になります。)
- 電池を加熱したり、火の中に投げ込まないでください。
(破裂などにより、けがの原因になります。)
- 航空機内や病院など無線機器の使用が禁止された区域では、必ず本製品のBluetooth通信をオフにしてください。

注意

- 強い静電気や電磁波のある場所で使わないでください。
- 分解、修理、改造しないでください。
- 本体や収納ケースに強いショックを与えたり、落としたり、踏んだり、噛んだり、振動を与えたりしないでください。
- 本体は水を流しながら洗ってください。水につけたりしないでください。
- 体温計の感温部を強く引っ張ったり、曲げたりしないでください。
(本体の故障や破損、傷害を負う原因になります。)
- 指定外の環境条件で保管したり、使用しないでください。(☞「仕様」)
(正しく検温できないことがあります。)
- 検温中は、本製品の近く（30 cm以内）で携帯電話やスマートフォンを使わないでください。
(誤作動の原因になります。)
- 電池を入れるときは、「+」側を上にしてください。
(間違えて入れると、けがや本体が故障する原因になります。)
- 指定外の電池を使わないでください。
- 電池を使い切ったときや長期間（3か月以上）使用しないときは、電池を本体内に入れたままにしないでください。
- 電源が入ったまま、電池を交換しないでください。
- 使用推奨期限の過ぎた電池を使わないでください。
(本体が故障する原因になります。)
- 電池の液が目に入ったら放置せず、すぐに多量の水で洗い流し、医師の指導を受けてください。
(けがの原因になります。)
- 複数の人で共用しないでください。
(感染症の原因になります。)

なぜ約20秒で測れるの？（予測検温のしくみ）

■体温とは・・・

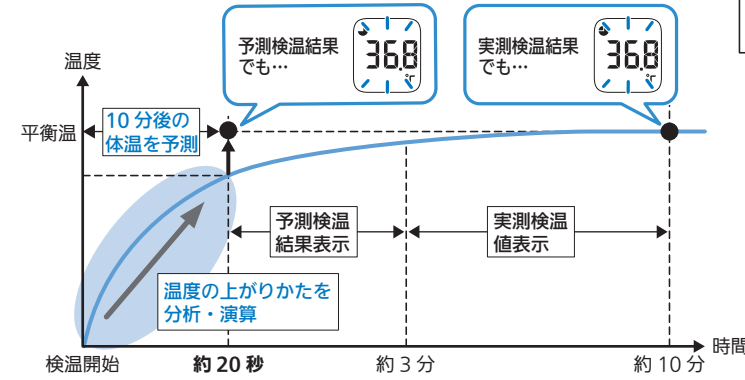
脳や内臓など、温度変化の少ない体の内部の温度のことを言います。

■通常、わきの下で正しい体温を測るには約10分必要

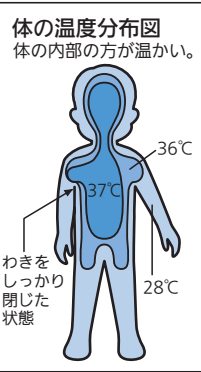
わきの下は温かいように思えますが、ある程度外気に触れているため、体の内部と同じくらいの温度になるまでには、しっかり閉じて約10分かかります。※このように体の内部と同じくらいに温まったときの温度を「平衡温」と言います。

■10分後の体温を約20秒で予測する

この体温計は、検温開始から温度の上がりかたを分析・演算することで、約20秒で約10分後の体温を予測することができます。



※予測検温だけでなく、実測検温もできます。
医師の指示などで、より厳密な体温測定が必要な場合は実測検温してください。(☞「体温を測る（実測検温）」)
※予測式体温計では、正しい測定方法で検温を行わなかった場合や、血行の状態、体格などによっては、予測精度が保証されない可能性があります。



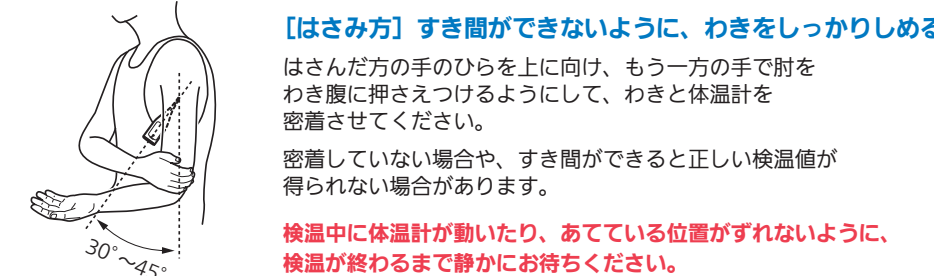
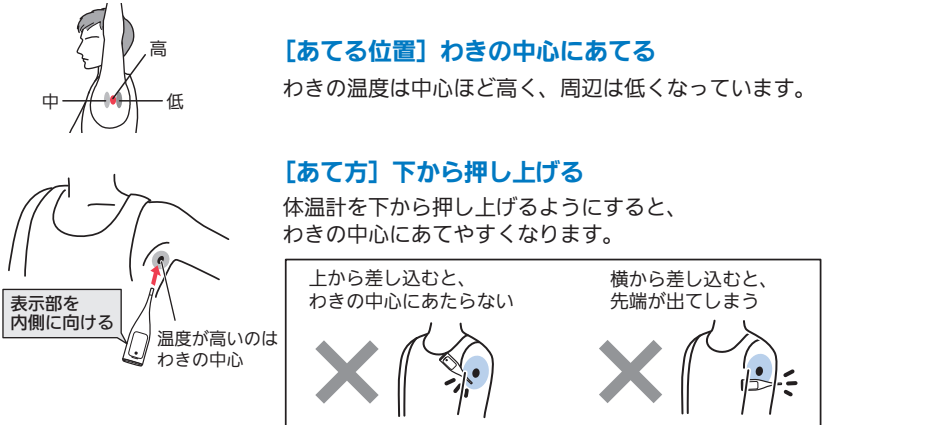
正しく測るために

検温前の準備

- より厳密な体温測定が必要な場合は、実測検温を行ってください。
特に医師の指示により検温する場合は、実測検温をお勧めします。
- 運動や入浴、飲食後は、30分以上あけてから検温してください。
- 起床後は、動く前に測るか、安静にしてから30分以上あけてから検温してください。
- 連続して検温しないでください。一度電源を切り、30秒以上あけてから検温してください。
- わきの下が汗ばんでいるときは、わきから汗をきれいに拭き取ってから検温してください。
- 長時間布団の中にとりたして、熱がこもっているときは、こもった熱を冷ましてから検温してください。

検温時のポイント

体温計を正しくあてて測らないと、精度の高い検温値が得られない場合があります。



アプリに本製品を登録する

「OMRON connect」アプリを使うと、測定した体温（検温データ）をスマートフォンに転送できます。転送すると、スマートフォンで体温の変化を簡単に確認できます。初めて使用するときは、下記の手順で「OMRON connect」アプリに本製品を登録してください。

- 1台のスマートフォンで、1名のデータを管理します。

1 スマートフォンに「OMRON connect」アプリをインストールする

- App StoreまたはGoogle Playで「オムロンコネクト」と検索するか、以下のウェブサイトからアクセスしてください。
<https://www.omronconnect.com/setup/>



2 「OMRON connect」アプリを開き、本製品を登録する

- アプリの指示に従って登録してください。

体温を測る（予測検温：約20秒で簡単に測定）

より厳密な体温測定が必要な場合は、実測検温を行ってください。
検温データをスマートフォンに転送する場合は、「OMRON connect」アプリを起動してください。

1 電源を入れる

- 電源ボタンを押すと、「ピッ」と音がして電源が入ります。
- 電源が入ると、表示部が点灯した後、前回測った体温が表示されます。



2 「L」が表示されたら、体温計をわきの中心にしっかりとさむ

- 左記の「正しく測るために」を参照して正しいはさみ方を確認してから検温してください。
- 「L」が表示されないときは、体温計の感温部が32℃以上になっている可能性があります。その場合は、体温計の感温部をよく絞ったぬれタオルなどで冷やしてから再度検温してください。

3 体温計をはさんだまま、ブザーが鳴るまで（約20秒間）静かに待つ

- 体温計のはさみ方や検温時の条件などにより、ブザーが鳴るまで時間がかかることがあります。ブザーが鳴るまではさみ続けてください。
- ブザーが鳴ったら予測検温は完了です。
- 以下の場合は、裏面の「おかしいな?と思ったら」を参照してください。
 - 検温中にブザーが「ピー」と鳴り、下図のように表示されたとき



- ブザーが「ビボビボビボ…」と鳴り、「Err」と表示されたとき



4 体温を確認する

- スマートフォンとペアリングしている場合、「OMRON connect」アプリを開くと自動的に検温データが転送されます。
- 実測検温を行う場合は、ブザーが鳴ってもそのままはさみ続けてください。
- 右記の「体温を測る（実測検温）」を参照してください。

5 電源を切って、収納ケースに入れる

- 電源ボタンを押すと、「ピッ」と音がして電源が切れます。電源ボタンを押さなかったときは、検温が完了してから約3分後に自動的に電源が切れます。

体温を測る（実測検温：時間をかけて厳密に測定）

医師の指示などで、より厳密な体温測定が必要な場合は、実測検温を行ってください。
検温データをスマートフォンに転送する場合は、「OMRON connect」アプリを起動してください。

1 左記の「体温を測る（予測検温）」の手順1～3に従って体温を測り、ブザーが鳴ってもそのままはさみ続ける

- 途中でわきから外すと、正しく検温できません。
- 予測検温開始から、3分以降に温度変化が少なくなると実測検温の表示に切り替わります。切り替わった直後に表示される体温は、予測検温の結果より少し下がります。



2 体温計をはさんだまま、ブザーが鳴るまで（約10分間）静かに待つ

- ブザーが鳴ったら実測検温は完了です。
- 検温中にブザーが「ピーピーピー」と鳴り、下記が表示された場合は、裏面の「おかしいな?と思ったら」を参照してください。



3 体温を確認する

- スマートフォンとペアリングしている場合、「OMRON connect」アプリを開くと自動的に検温データが転送されます。
- 予測検温データと実測検温データが転送された場合、アプリには実測検温データのみ表示されます。

4 電源を切って、収納ケースに入れる

- 電源ボタンを押すと、「ピッ」と音がして電源が切れます。電源ボタンを押さなかったときは、検温が完了してから約3分後に自動的に電源が切れます。

手動で検温データを転送する

検温データは自動的に転送されますが、自動転送できなかった場合は、あとから手動で転送することができます。測定中以外は、電源を切った後でも手動で転送できます。検温データを転送するときは、「OMRON connect」アプリを起動してください。

1 ④ [通信] ボタンを押す

- 検温データが転送されます。
- ④ [通信] ボタンを2秒以上押し続けると「P」が表示されますが、エラーではありません。その場合は、ボタンから手を離してください。データが転送されます。

2 電源を切って、収納ケースに入れる

- 電源ボタンを押すと、「ピッ」と音がして電源が切れます。電源ボタンを押さなかったときは、転送が完了してから約10秒後に自動的に電源が切れます。

Bluetooth通信をオフにする

航空機内や病院など、無線通信が禁止されている区域に本製品を持ち込む場合は、下記の手順に従って、Bluetooth通信をオフにしてください。
お買い上げ時は、Bluetooth通信はオンに設定されています。

1 電源が切れている状態で、④ [通信] ボタンを10秒以上押す

- ブザーが「ピッ」と鳴って、「off」が表示されます。



2 電源ボタンを押して、電源を切る

- 電源ボタンを押さなかったときは、表示が切り替わってから約10秒後に自動的に電源が切れます。

- 再度Bluetooth通信をオンにするときは、電源が切れている状態で、④ [通信] ボタンを2秒以上押します。ブザーが「ピッ」と鳴って「on」が表示されます。
- Bluetooth通信がオフのときは、*off が表示されます。オンのときは表示されません。

裏面に続きます

お買い上げ時の状態に戻す

お買い上げ時の状態に戻す場合は、以下のように操作してください。
本体に記録されているすべての設定と検温データが消去されます。

⑧ [通信] ボタンを押しながら、2秒以内に電源ボタンを押す

- 「ピッ」と音がして「CLR」が点滅したら、2つのボタンから手を離してください。

2 ⑧ [通信] ボタンを2秒以上押す

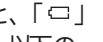
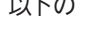
- 「ピッ」と音がして点滅から点灯が変わったら、手を離してください。

3 電源ボタンを押して、電源を切る

- 電源ボタンを押さなかったときは、「CLR」が点灯してから約10秒後に自動的に電源が切れます。
- お買い上げ時の状態に戻しても、「OMRON connect」アプリに保存されている検温データなどの情報は消去されません。

電池を交換する

本製品は、リチウム電池CR2032を1個使用しています。
お買い求め時に内蔵されている電池はお試用です。電池寿命の回数以内に切れることがあります。

電池の残量が減ると、「」マークが表示されます。さらに使い続けると、「」マークと「A1」が表示されます。「」マークと「A1」が表示されたら、以下の手順に従って電池を交換してください。

1 小型ドライバーで、本体裏面の電池カバーのねじを外し、電池カバーを外す

2 つまようじなどの細く折れにくい棒を使って電池を取り外す

- 金属製の工具を使わないでください。周囲の部品を傷つけたり、ショート（短絡）による発熱、故障などの原因になる恐れがあります。

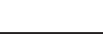
3 新しい電池を右図のように入れる

- 「+」側を上にして入れてください。

4 電池カバーを元通りに取り付け、ねじを締める

- 電池カバーが浮かないよう、しっかりと押しこんでください。電池カバーと本体の間に異物などが挟まらないように注意してください。すき間から水などが内部に浸入し、故障の原因になります。

5 「OMRON connect」アプリをご利用の場合は、アプリを開き、⑧ [通信] ボタンを押して日付・時刻を設定してください。

- 日付と時刻が設定されるまで「」マークが点滅し続けます。

- 使用済みの電池・本体を廃棄するときは、お住まいの市区町村の指導に従ってください。

保管とお手入れ

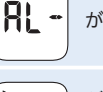
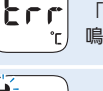
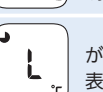
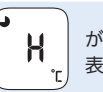
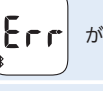
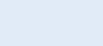
保管時のお願い

- 体温計は、収納ケースに入れて保管してください。
- 次のような場所に本製品を保管しないでください。破損の原因となります。
高温・多湿のところ、直射日光のあたるところ、ほこりの多いところ、暖房器具の近く、塩分などを含んだ空気の影響を受けるところ。/ 振動、衝撃のあるところ。/ 化学薬品の保管場所や腐食性ガスの発生する場所。

お手入れ時のお願い

- 体温計（特にフラット感温部）は、いつも清潔にお手入れしてください。
- 本体、収納ケースは水洗いできます。本体は水を流しながら洗ってください。水につけたりしないでください。水洗い後、やわらかい布でから拭きしてください。ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 消毒する場合は、消毒用アルコール綿で2～3回拭き取ってください。
- 本体の汚れは、乾いたやわらかい布で拭き取ってください。
- 汚れがひどいときは、水または中性洗剤をしみ込ませた布をかたく絞って拭き取った後、やわらかい布でから拭きしてください。
- 本体をアルコールに浸したり、熱湯（50℃を超える湯）で消毒しないでください。
- 超音波洗浄をしないでください。

おかしいな?と思ったら

こんなとき	原因と対処のしかた
 Er.0、1、2、4、5が表示された	本体が故障している可能性がある。 ・オムロンお客様サービスセンターまでお問い合わせください。 （※「サポート情報」）
 が表示された	体温計が約40℃を超えるところに保管してあった。 ・10～40℃の部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。
 が表示された	体温計が約10℃未満のところに保管してあった。 ・10～40℃の部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。
 が表示され、ブザーが「ピポピポピポ…」と鳴った	予測検温中に、わきにはさみながら体温計を動かしたり、体を動かしたりしたために、温度上昇の分析・演算に障害が生じた。 ・そのままではさみ続けて実測検温を行うか、一度電源を切り、30秒以上間隔をあけてから、測り直してください。
 が表示され、ブザーが「ピー」と鳴った	体温計をわきに正しくはさめていない。 または、わきからずれていたために、正しく検温できていない。 ・一度電源を切り、30秒以上間隔をあけてから、測り直してください。
 が表示され、ブザーが「ピーーピーー」と鳴った	体温計の感温部の温度が32℃未満になっている。 ・エラーではありません。そのまま検温を行ってください。
 が検温準備完了時に表示された	体温計の感温部の温度が32℃未満になっている。 ・エラーではありません。そのまま検温を行ってください。
 が検温準備完了時に表示された	体温計の感温部の温度が42℃を超えている。 ・体温計の感温部をよく絞ったぬれタオルなどで冷やしてから検温してください。
 検温準備完了時に温度が表示される	外気温（周囲環境温度）が32℃を超えるると体温計の感温部が温まり、実際の温度が表示される。 ・体温計の感温部をよく絞ったぬれタオルなどで冷やしてから検温してください。
電源ボタンを押しても表示部に何も表示されない	電池の向きが間違っている。 ・電池を正しく入れ直してください。（※「電池を交換する」） 電池残量がなくなっている、または電池が入っていない。 ・電池を交換してください。（※「電池を交換する」）
 が表示された	データが転送できなかった。/ 機器登録できなかった。 ・「OMRON connect」アプリのヘルプを参照してデータを転送/機器登録してください
 が表示された	④ [通信] ボタンを2秒以上押し続けた。 ・スマートフォンに機器登録をするときに表示されます。機器登録をする際は、「OMRON connect」アプリの表示に従ってください。 ・アプリを使わない場合、または既に機器登録されている場合は、電源を切ってください。
 が表示された	転送されていない検温データの件数が保存可能件数に達している。最大保存可能件数を越えると、古いデータから削除され、新しいデータが保存されます。 ・データを転送してください。 電池交換後、日付・時刻の設定をしていない。 ・「OMRON connect」アプリに接続して日付・時刻を設定してください。
健康時の体温がこれまでより高い	実測式の体温計で3～5分測った場合と比べている。 ・実測式で10分より短い時間で測ると、実際の体温より低い値が出る場合があります。また、正確に測定した日本人の平均的な体温（健康時）は36.89℃±0.342℃です。例えば37.0℃でも平均的な平熱の範囲で、必ずしも発熱とは限りません。 ※出典：東京大学医学部 田坂内科：日新医学 44（12）：633-638、1957 より
検温値がばらつく	体温計の感温部をあてるところが、検温するたびに変わっている。 ・体温計の正しいあて方を確認してください。（※「正しく測るために」）
検温値が通常より高いまたは検温値として「H」（42℃を超える）が表示される	運動や入浴、飲食の直後に検温した。 ・30分以上時間をあけてから検温してください。 長時間布団の中にいたりして、熱がこもっている。 ・わきにこもった熱を冷ましてから検温してください。 起床後すぐに動き出したときに検温した。 ・起床後、動く前に測るか、動き出してから30分以上時間をあけてから検温してください。
予測検温値が実測検温値より高いまたは低い	予測検温時と実測検温時で体温計の位置やわきとの密着具合が変わると、検温値に影響がでます。 体温計が、正しい位置にあたっていない。 ・体温計の感温部をわきの中心にあて、下から少し押し上げるようにはさんでください。（※「正しく測るために」） わきと体温計の密着が弱い。 ・わきと体温計が密着するように腕を軽く押さえてください。（※「正しく測るために」）

こんなとき	原因と対処のしかた
体温計が、正しい位置にあたっていない。 ・体温計の感温部をわきの中心にあて、下から少し押し上げるようにはさんでください。（※「正しく測るために」） わきと体温計の密着が弱い。 ・わきと体温計が密着するように腕を軽く押さえてください。（※「正しく測るために」）	体温計の感温部が、衣服に触れている。 ・衣服に触れないようにして、測り直してください。 連続して検温している。 ・一度電源を切り、30秒以上間隔をあけてから、測り直してください。 わきの下が汗ばんでいる。 ・わきから汗をきれいに拭き取ってから検温してください。
検温値が通常より低いまたは検温値として「L」（32℃未満）が表示される	

- 以上の方法でも解決しないときは、オムロンお客様サービスセンターにお問い合わせください。

仕様

医療機器認証番号	303AGBZX00094000	類別	機械器具16 体温計
一般的名称	電子体温計	医療機器分類	管理医療機器
販売名	電子体温計 MC-6810シリーズ	販売商品コード	MC-6810T2
測定方式	予測・実測（ピークホールド方式）	感温部	サーミスタ
測定精度	±0.1℃（標準室温23℃で恒温水槽で実測測定した場合）	体温表示	3桁+℃表示、0.1℃毎
測定精度	±0.1℃（標準室温23℃で恒温水槽で実測測定した場合）	使用環境条件	+10～+40℃／30～85%RH
測温範囲	+32.0℃～+42.0℃	保管環境条件	－20～+60℃／10～90%RH
電源電圧	DC3 V（リチウム電池 CR2032×1 個）	電池寿命	約1年（室温23℃、1日1回検温、1日1回データ転送を行った場合）
耐用期間	5年	質量	約30 g（電池含む）
外形寸法	32.6（幅）×122（長さ）×16.6（厚さ）mm	電撃保護	内部電源機器  =BF 形装着部（感温部・プローブ）
IP保護等級	IP22	無線通信仕様	使用周波数帯：2.4 GHz（2400～2483.5 MHz） 変調方式：GFSK / 有効放射電力：< 20 dBm
通信方式	Bluetooth® Low Energy		
メモリ	メモリ：30件※（本体表示は前回値のみ） ※実測で測定した場合。予測のみで測定した場合は最大60件。		
付属品	お試用電池（CR2032×1個、内蔵）、収納ケース、セットアップガイド、取扱説明書（医療機器添付文書・品質保証書付き）		
製造販売元	オムロンヘルスケア株式会社 電話：0120-30-6606（オムロンお客様サービスセンター）		

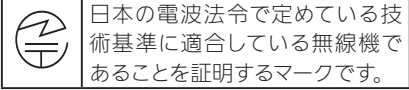
- お断りなく仕様を変更することがあります。
- IP保護等級とは、IEC（国際電気標準会議）60529によって規定された本体による保護構造を等級分類するものです。IP22は、指などの直径12.5 mm以上の固形物に対して保護されており、斜めに落下してくる水滴に対して、動作の妨げがないように、保護されていることを示します。

電波法について
・本機は電波法に基づく工事設計認証を受けた 2.4 GHz 帯小電力データ通信システムの無線設備です。本機を改造したり、無線設備に記載されている認証番号を消さないでください。電波法に抵触する恐れがあります。 ・本機は日本国内専用です。日本国外で使用しないでください。海外で使用されると、その国の電波法に抵触する恐れがあります。
データ通信について
・本機を本機と同じ周波数を使用した無線 LAN、電子レンジ、無線機器などの周辺でご使用になりますと、本機との間で電波干渉が発生する可能性があります。電波干渉が発生した場合、使用しない機器を停止するか、本機の使用場所を変えるなど電波干渉の生じない環境でご使用ください。 ・電波を使用している関係上、第三者が故意または偶然に傍受する事も考えられます。機密を要する重要な事柄や人命に関わることは使用しないでください。
電波干渉に関するご注意
・本機の使用周波数帯では、無線 LAN や電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される移動体識別用構内無線局、および免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下、「他の無線局」と略す）が運用されています。 1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」を運用していないことを確認してください。 2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合は、速やかに使用場所を変えるか、製品の使用を停止（電波の発信を停止）してください。 3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、オムロンお客様サービスセンターにお問い合わせください。（※「サポート情報」） ・次のマークは電波の種類と干渉距離を表しています。 使用周波数帯域：2.4 GHz 帯 変調方式：その他

2.4 XX 1 想定干渉距離：10 m 以下

全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能です。

製品に表示されているシンボルの意味



EMC技術資料について

本製品はEMC規格 JIS T 0601-1:2:2018 に適合しています。
本製品のEMC技術資料は、以下のウェブサイトから確認することができます。
https://www.healthcare.omron.co.jp/support/download/emc/
ウェブサイトを確認できないときは、オムロンお客様サービスセンターにお問い合わせください。

商標について



- Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する商標であり、オムロンヘルスケア株式会社は、これらの商標を使用する許可を受けています。
- App StoreはApple Inc. のサービスマークです。
- Google Play およびGoogle Play ロゴはGoogle LLC. の商標です。

サポート情報

本製品に役立つウェブサイトをご紹介します。

お問い合わせの前に

■製品のよくあるご質問



https://www.healthcare.omron.co.jp/faq/

- お問い合わせの前に「おかしいな?と思ったら」もあわせてご確認ください。

オムロンお客様サービスセンター

■「オムロンヘルスケア お客様サポート」ウェブサイト



https://www.healthcare.omron.co.jp/support/

＊2023年4月（第2版）
2021年11月（第1版）

医療機器16 体温計

管理医療機器 電子体温計 14032010

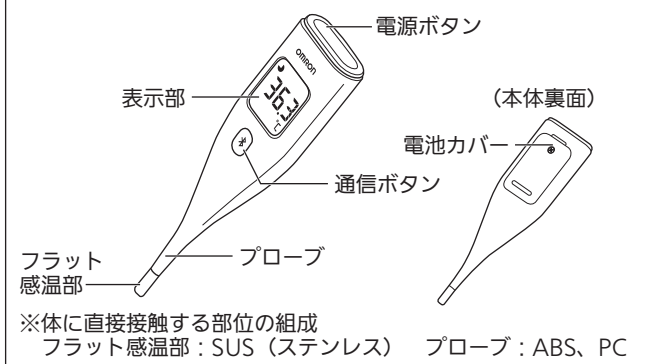
電子体温計 MC-6810シリーズ

【禁忌・禁止】

- 検温結果の自己診断、治療は危険ですので医師の指導に従ってください。
- 自己診断は、病気が悪化する原因になります。
- 人の体温測定以外に使用しないでください。
- 動物などを無理に測ろうとすると、暴れてけがをする原因になります。
- 乳幼児の手の届かないところに保管してください。
- また、子供だけで使用させないでください。
- 誤飲による窒息や傷害に至ることがあります。

【形状・構造及び原理等】

1. 主要部の形状と名称



2. 構成

- 本体 1個
- リチウム電池CR2032 1個
- 収納ケース 1個
- 取扱説明書 1部

3. 動作原理

本製品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、測定開始から約20秒後にブザーが鳴り、予測値を表示する。そのまま測定を継続すると実測測定へ移行する。測定開始から約10分後に測定終了ブザーが鳴り、実測測定値を表示する。又、Bluetooth通信機能により測定値を外部へ転送することができる。

4. 仕様

- 外形寸法 : 32.6（幅）×122（長さ）×16.6（厚さ）mm
- 質量 : 約30 g（電池含む）
- 使用環境条件 : +10～+40℃/30～85%RH（結露なきこと）

5. 電氣的定格

- 電源 : リチウム電池CR2032×1個（DC3 V）
- 電撃保護 : 内部電源機器 BF形装着部
- 消費電力 : 0.04 W
- IP保護等級 : IP22

6. 性能及び安全性に関する規格等

- (1) 最高温度保持機能：実測した最高温度値を保持し一定時間表示する
- (2) デジタル表示：実測した体温をデジタル表示する
- (3) 最大許容誤差 : 一般用 ±0.1℃（32.0℃～42.0℃）
※標準室温23℃にて恒温水槽で実測測定した場合

(4) 電源電圧

- 試験前後の温度表示の差：一般用 ±0.2℃以内

(5) 防 浸

- 試験1回目と2回目及び1回目と3回目の温度表示値の差：一般用 0.1℃以下

(6) 測温範囲

- 一般用 32.0℃～42.0℃

(7) 最小表示単位

- 一般用 0.1℃

(8) 測定範囲外告知

- 32.0℃未満のとき「L」を表示、42.0℃を超えると「H」を表示

(9) 感 温 部

- サーミスタ

(10) 測定方式

- 予測・実測（ピークホールド方式）

(11) 体温表示

- デジタル表示3桁+℃表示、0.1℃毎

【使用目的又は効果】

感温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

医療機器認証番号：303AGBZX00094000

【使用方法等】

- 電源ボタンを押して電源を入れます。
- 表示部が「検温準備完了表示」になっていることを確認します。
- 感温部をわきに挿入し、密着させます。
- 予測検温を終了するまで、本体を保持します。
- 予測検温終了のブザー音で、予測検温結果を確認します。
- 予測検温の場合は、電源ボタンを押して電源を切ります。実測検温の場合はそのまま検温を続けます。
- 予測検温開始から約10分で測定が終了しブザー音が鳴ります。
- 実測検温結果を確認し、電源ボタンを押して電源を切ります。

測定値を転送する方法

あらかじめ「専用アプリケーション」を、スマートフォンにダウンロードしてください。

- 「専用アプリケーション」を起動します。
 - 上記の「使用方法」に従い、検温を行います。検温終了後（「使用方法」（5）、（7））、検温データを転送します。
 - 検温データが「専用アプリケーション」上に表示されたら転送完了です。
 - 電源ボタンを押して電源を切ります。
- 詳細については取扱説明書をよくお読みください。

【使用上の注意】

- わき以外で検温しないでください。
- 連続して検温しないでください。一度電源を切り、30秒以上間隔をあけてから、測り直してください。
- 検温中、感温部を検温する部位に密着させるように固定し、空隙はつくらないようにしてください。また、大幅に動かさないでください。
- 電池の電圧が低下すると電池交換マークが表示されますので電池を取り替えてください。
- 起床、運動、飲食、入浴後は、30分以上あけてから検温してください。
- わきの下が汗ばんでいるときは、わきの下を乾いた布で数回拭いてから検温してください。
- 本体は水を流しながら洗ってください。水につけたりしないでください。水洗い後、やわらかい布でから拭きしてください。
- 感温部を強く引っ張ったり、曲げたりしないでください。

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

- 次のようなところに保管しないでください。
 - 高温・多湿、直射日光、ほこり、暖房器具のそば、塩分などを含んだ空気の影響を受けるところ。
 - 振動、重圧、衝撃（運搬時を含む）のあるところ。
 - 化学薬品の保管場所や腐食性ガスの発生するところ。
- 保管環境条件：－20～+60℃/10～90%RH

2. 耐用期間

標準的な使用期間：5年 [自己認証（当社データ）による]

【保守・点検に係る事項】

- 故障した場合は勝手に修理、分解せず、お客様サービスセンターにご連絡ください。
- 勝手に改造しないでください。
- 本製品に化学薬品をかけないでください。
- 本体は水を流しながら洗ってください。水につけたりしないでください。水洗い後、やわらかい布でから拭きしてください。
- 本体の汚れは、乾いたやわらかい布で拭き取ってください。
- 汚れがひどいときは、水または中性洗剤をしみ込ませた布をかたく絞って拭き取った後、やわらかい布でから拭きしてください。
- 消毒する場合は、消毒用アルコール綿で2～3回拭き取ってください。

＊【製造販売業者及び製造業者等の氏名又は名称等】
製造販売元：オムロンヘルスケア株式会社
電話：0120-30-6606
（オムロン お客様サービスセンター）

取扱説明書を必ずご参照下さい。